

大手町・丸の内・有楽町（以下、大丸有）エリアの取組：

産官学の連携の下、世界に先駆け社会課題を解決するビジネスが「自然発生的に」生まれ続ける、都市の構築
～ TMIPを核としたイノベーション・エコシステムの促進～

1. 大丸有エリアにおけるキーパーソン・インフルエンサー



【入山 章栄氏】
早稲田大学 大学院経営管理研究科 教授
TMIPアドバイザーとして当地区のイノベーション・エコシステムを推進

【鎌田 富久氏】
TomyK代表
TMIPアドバイザーとして当地区のイノベーション・エコシステムを推進

【柴田 誠氏】
FINOLAB所長
日本を代表するFintechエバンジェリスト。
FINOLABから日本のFintechを牽引

2. 大丸有エリアの集積

場の集積

- FINOLAB、Global Business Hub Tokyo、EGG JAPAN、Inspired.Lab等インキュベーション施設の集積

資金の集積

- 資金力のある企業の集積4300社（内、東商一部・二部上場企業本数115社）。
- TMIPパートナーの民間VCとして6社と連携

ヒトの集積

- SAAI・3×3Lab Future等で活躍する個人のイノベーター
- 大企業人材の集積及びFintechをはじめとした多様なスタートアップの集積

3. スタートアップ支援・イノベーションに係る進行中のプロジェクト、今後予定・計画しているプロジェクト

サーキュラーエコノミーの推進

社会課題となっているサーキュラーエコノミーをテーマに掲げ、協働・協創を生むためのプログラム（ワークショップ・ピッチ等）を実施予定。



関係者のコミュニティを作る取り組み

既存知の掛け合わせによるイノベーション創発・当地区でのコミュニティの形成を目指しランチ会等を予定。



テーマ・実証実験などの推進。

新技術の社会実装も見据えた実証実験の実施及び実証実験フィールドとしてのコーディネートを実施。



・ **民間組織の取組**
渋谷エリアの取組

渋谷エリアの取組： 唯一無二のカルチャー + 産官学民・スタートアップが相乗するトップクラスのエコシステム

1 . 渋谷エリアにおけるキーパーソン・インフルエンサー



渋谷区長
長谷部 健



Plug and Play Japan
Phillip Seiji Vincent



DeNA会長
南場 智子



サイバーエージェント社長
藤田 晋



GMO社長
熊谷 正寿



mixi社長
木村 弘毅



Digital Garage社長
林 郁

2 . 渋谷エリアにおける主要コミュニティ

● **渋谷未来デザイン**：未来の「都市」の可能性と、渋谷を愛する人々が実現したい「夢」を叶えるため、多様な人々のアイデアや才能を領域を超えて収集し、オープンイノベーションにより社会的課題の解決策をデザインする組織。
2018年一般社団法人設立。

● **渋谷プラットフォームズミーティング**：渋谷にイノベーションの拠点を構える多様なジャンルの企業・プログラム関係者が集結・議論する場として、2019年第1回会合開催。東京都の実施する「エコシステム形成促進支援事業」認定地域別協議会として認定、渋谷が“幅広いプレイヤーが活躍し、未来の起業家として誰もがチャレンジできる街”となることを目指して活動。

SHIBUYA BIT VALLEY：2018年、DeNA・サイバーエージェント・GMOインターネット・mixiの4社によりプロジェクト開始。渋谷が日本のインターネットの発展を牽引する最先端テクノロジーの集積地とし、多くのIT企業の拠点となってきたことを背景に渋谷を“IT分野における世界的技術拠点”として後押しする取組を実施。テックカンファレンスの開催を中心に、渋谷のIT企業のコミュニティ強化、交流の活性化を目指し中長期的に継続して活動するとともに、渋谷区との連携強化も推進。

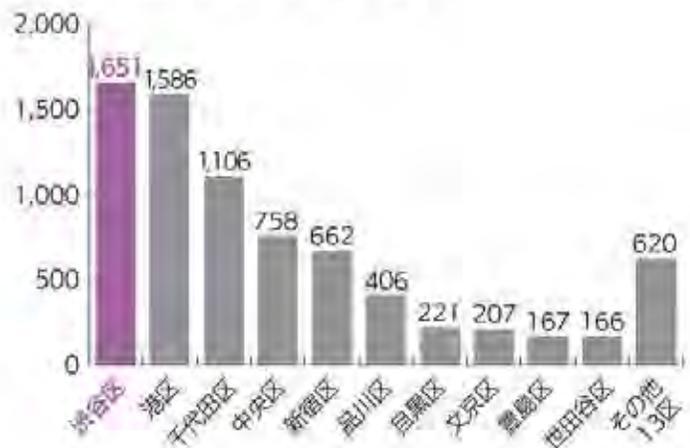
Google for Startups Campus：2019年11月オープン。ロンドン、サンパウロ、ソウルなど、世界各地に拠点を持つ Google for Startups Campus ネットワークに新たに加わる新拠点。Google の支援を得られるだけでなく、日本のスタートアップがアイデアを生み出し、世界中の起業家とつながるためのプラットフォームとして機能。

3. 渋谷エリアの集積

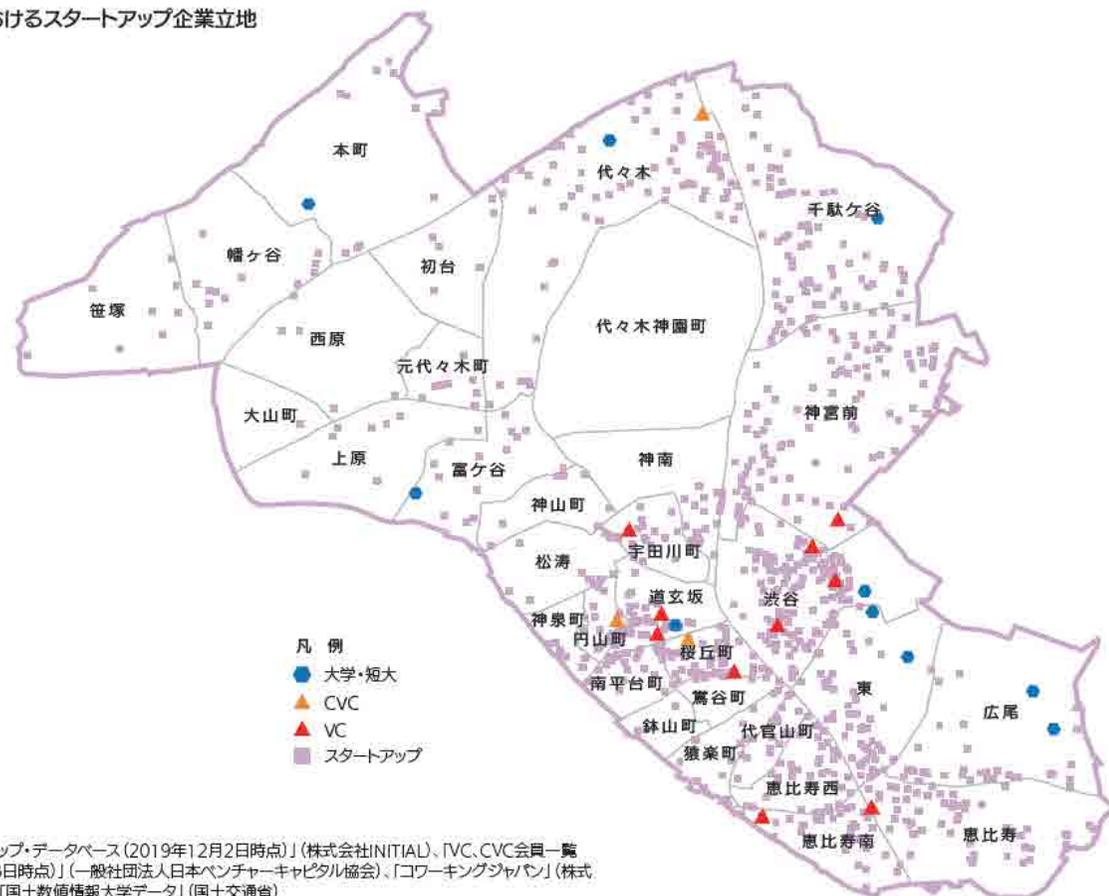
渋谷区は東京23区の中でスタートアップ企業が最も多く集積している（1651社）。また、ベンチャーキャピタル（VC）/コーポレートベンチャーキャピタル（CVC）の立地をみると、23区においては港区、千代田区、中央区に次いで、渋谷区に多く集積しているほか、コワーキングスペースも充実。

出典：「渋谷区産業・観光ビジョン2020-2029（素案）」

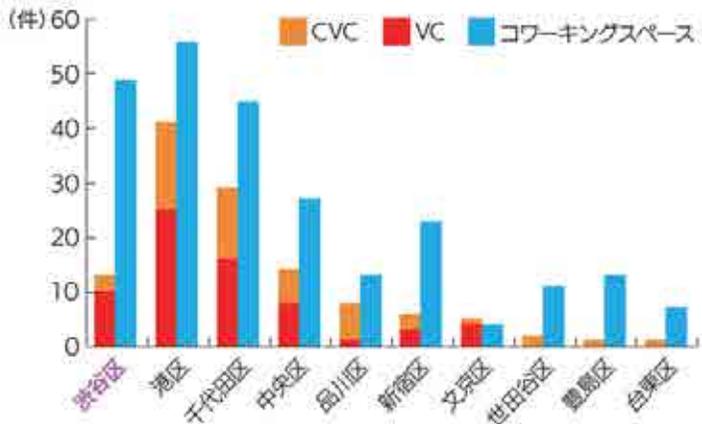
■東京23区のスタートアップ企業数



■渋谷区におけるスタートアップ企業立地



■東京23区のVC/CVC/コワーキング・スペース数



出典：「スタートアップ・データベース（2019年12月2日時点）」（株式会社INITIAL）、IVC、CVC会員一覧（2019年12月13日時点）」（一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会）、「コワーキングジャパン」（株式会社エッグレイ）、「国土数値情報大学データ」（国土交通省）

4 ． 進行中のプロジェクト、今後予定・計画しているプロジェクト

「渋谷」のユニークな文化を活かし、地域主導で渋谷ならではの取組を推進していく

○渋谷区の取組：

世界を引き付ける渋谷カルチャーという魅力と、産官学民＋スタートアップが相乗する、現在の国内トップのエコシステムをさらに拡張させ、世界と伍するオープンイノベーション都市へ成長させる

（「渋谷区産業・観光ビジョン2020-2029（素案）」より）

1）コワーキングや交流スペースなどの整備

渋谷区内には多様なスタートアップ企業が集積し、コワーキングスペースも様々な運営主体によりそれぞれコンセプトを持って運営されている。こうした様々なワーキングスペースの垣根を越えて誰でも集まれ、そして出会いが生まれ、強みや課題の共有、そしてイノベーションが起こるきっかけとなる場の整備を検討していく。また、事業が軌道にのった後に引き続き渋谷区内で事務所を構えるための、小規模オフィス需要も考えた街づくりも推進。

渋谷駅周辺地区に加え、笹塚・幡ヶ谷・初台エリア（ササハタハツ）での社会起業家の拠点を形成するなど、最先端のまちづくり現場として展開。

2）ビジネスマッチングやテストフィールドの提供

「オープンイノベーション」のコンセプトの下、大企業とスタートアップが協働してイノベーションを起こしていくために必要なビジネスマッチングのイベントの実施を検討します。また、社会課題とのマッチングや、新たな技術の実装の場・テストフィールドの提供についても検討し、渋谷にいることのインセンティブ向上を進める。

3）海外企業・外国人起業家への支援

外国人起業家に対し、起業に係る各種手続きや、規制面、ワークスペース、居住などの相談に多言語で対応できる窓口の設置を検討します。

また、それぞれの生活環境を踏まえたサポートの検討も進める。

4）産官学連携による起業人材の育成

学生をはじめとした若い世代に対し、起業への興味を喚起するよう、起業ノウハウの学習だけでなく、起業にチャレンジできる仕組みや、チャレンジに失敗しても次につなげていける、多様な人と交われる場を、産学官連携のもと構築していくことを検討。

5）スタートアップ企業と地域との交流

地域住民に自分の地域のスタートアップのことを知ってもらい、応援してもらおう。また、スタートアップも地域と関わることで、その技術が地域課題の解決に活かされたり、渋谷区へのシティプライドが一層深まっていくことを目指す。ソーシャル・イノベーションウィーク渋谷（SIW）等、文化的なイベントとも連携し、起業家と地域が繋がれる場づくりを進めていく。

6）楽しく働ける、そして住みたくなる環境づくり

仕事が終わった後も街で楽しむことができ、そこからまた新しい交流、発想が生まれるという環境を構築し、渋谷区で働きたいという起業家を増やしていく。大規模だけでなく中小の魅力を維持し、個性的な事業所やお店を増やす取り組みや、ナイトタイムエコノミーを充実するほか、住居を兼ね備えたコワーキングスペースなどを充実させていく検討なども進めていく。

○地域における多様な関連取組：

（１）渋谷エリアの再開発

- ・渋谷QWS：年齢や専門領域を問わず、渋谷に集い活動するグループのための拠点として、2019年、渋谷スクランブルスクエア内に開業。コミュニティコンセプトを「Scramble Society」とし、グループ間の交流や領域横断の取り組みから科学変化が生まれ、未来に向けた価値創造活動を加速させることを目指す。東大、慶應義塾大、早稲田大、東工大、東京都市大学の5大学を始めとするさまざまな領域のパートナーとの連携から生まれる独自のプログラムが想像力と実現力をサポート。200名規模の大規模ホールから対話型サロン、結節点となるハブスペースなどを持ち多様なコミュニティを実現する。
- ・渋谷フクラス：2019年11月開業。17階にコワーキングスペース・シェアオフィス「ビジネスエアポート渋谷フクラス」
- ・渋谷駅桜丘口地区：2023年竣工予定。商業・オフィス空間の創出に加え居住環境も充実。多言語対応の国際医療施設、サービスアパートメント、子育て支援施設など、グローバル対応の生活支援施設を整備。クリエイティブ・コンテンツ産業の拡充を図るため、起業支援施設も計画し、産学連携による「渋谷発・ベンチャー」の育成で、東京そして日本の活性化に貢献。

（２）大企業のオープンイノベーション、メガベンチャーによる動き

- ・三井住友銀行：スタートアップ支援のため「Hoops Link Shibuya」、「SMBC Startup Hub」2拠点を設立、運営している。
- ・パナソニック：100年後の未来を見据えた実験の場「100 Banch」を設立、運営している。
- ・日本経済新聞：スタートアップに関する記事に特化した渋谷分室をSOIL内に設立。
- ・朝日新聞：Asahi Media Lab Venturesのアクセラレーションプログラムを渋谷で実施している。
- ・みずほ銀行：渋谷区とS-SAP協定を結びスタートアップ支援を行っている。
- ・Cyber Agent：「サイバーエージェントキャピタル社」による投資、社内起業プログラムで多くのスタートアップを創出。学生起業支援プログラムも展開。
- ・Digital Garage：2010年、日本初のアクセラレーター「Open Network Lab」を設立、様々なプログラムを通じて多数のスタートアップを輩出している。
- ・DeNA：VCである「デライトベンチャーズ社」によるスタートアップ支援、またリーニンキュベーション部による創業支援。
- ・GMO：「GMO TODOROKI」による設立支援、「GMOベンチャーキャピタルズ」によるVC機能を有する。
- ・MIXI：「Wベンチャーズ社」でスタートアップへの投資を行っている。
- ・Google：スタートアップ支援組織「Google Campus」を設立、グローバルな経験を活かし様々なスタートアップ支援プログラムを展開していく予定。

（３）地域コミュニティによる動き

- ・渋谷区と中国広東省・深圳市南山区が連携しイノベーションを推進する施策として、南山区のスタートアップ向け国際的ピッチ大会の日本予選「The Innovation Nanshan Entrepreneurship Star Contest Shibuya」を2018年より開催。
- ・多様な未来を考える1週間として、カンファレンスや体験プログラムを含め渋谷駅周辺～原宿表参道エリアの商業施設やイベントスペース等を拠点とした都市回遊イベント「Shibuya Innovation Week(SIW)」を毎年開催。
 - ・2020年1月、KDDI、渋谷区観光協会、渋谷未来デザインの3社を含む32の企業・団体により「渋谷5Gエンターテインメントプロジェクト」を発足。来たる5G時代を見据え、エンターテインメントに特化したテクノロジーを駆使し、渋谷の街をアップデートしていく共同プロジェクト。エンターテインメント領域を中心に、新たな文化の創出や観光面での魅力的な街づくりを推し進める。

・ **民間組織の取組**
日本橋エリアの取組

日本橋エリアの取組： ライフサイエンス・エコシステム構築による「新産業創造」

1. 日本橋エリアにおけるキーパーソン・インフルエンサー



理事長
岡野 栄之

会員数 437 (2020年2月12日現在)

- A会員（大企業）:50
- B会員（ベンチャー企業、アカデミア、官等）:247
- C会員（個人）:140



一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワークジャパン (LINK-J)

医薬品産業をはじめとするライフサイエンス産業が集積する東京・日本橋の地に一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン (LINK-J) が設立されたことで、分野を超えて、人と人とのリアルな交流を生み出す最適な環境が生まれている。大学、学会、公的機関、スタートアップから世界的な大手企業に至る様々な企業やその業界団体、海外機関などの主要なプレイヤーが、創薬を含め医療機器やデジタルヘルスなど多岐にわたる分野で、集い、交わり、刺激しあうことで、ここから新たな価値が創造されている。

LINK-Jサポーター

LINK-Jでは、起業の経験をお持ちの方や、研究・開発、経営、法律・財務など様々な領域について卓越した知見・人脈を有する方などがサポーターに就任している。サポーターはLINK-Jが主催する各種イベントに参画するとともに、LINK-Jメンバー（特別会員）に対して個別の助言などを行っている。 <https://www.link-j.org/supporter/>



伊藤 毅
Beyond Next Ventures
株式会社



内田 毅彦
株式会社日本医療機器開
発機構



大下 創
MedVenture Partners
株式会社

日本橋エリアの取組： ライフサイエンス・エコシステム構築による「新産業創造」

2. 日本橋エリアの集積



LINK-J
Life Outdoor Jammin' Japan

「コミュニティ」の構築

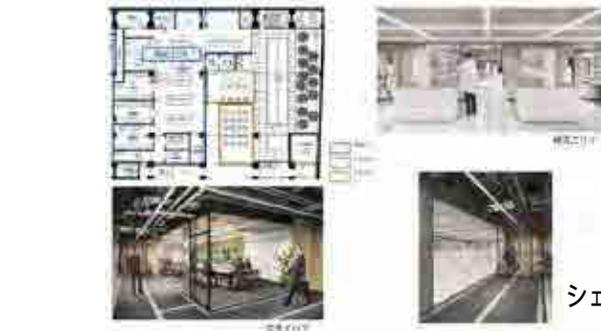
ヒトと情報が結合する
仕掛け（ソフト）



都市に暮かきと潤いを
三井不動産

「場」の整備

ヒトと情報が集う空間
（ハード）にテナントを
誘致



・日本橋は、歴史的に古いものと新しいものが共存することで新しい価値を創造してきた場所。また、豊富な商業施設や宿泊施設などの魅力的な都市環境を備え、国内外から情報・人・投資家の注目を集めることができる場所でもある。

・日本橋は、江戸時代から「薬の街」として知られ、現在でも我が国を代表する医薬品企業が集積しており、ライフサイエンスの知が集まっている。

・東京都は、2014年に策定した「東京都長期ビジョン」において日本橋を「国際的なライフサイエンスビジネス拠点」と位置づけている。

・三井不動産は日本橋ライフサイエンスハブ、日本橋ライフサイエンスビル、日本橋ライフサイエンスビル2 など9拠点に「人と情報が集まる場」を整備した。これらの拠点にはベンチャー企業向け小割オフィス、サービスオフィス、カンファレンスルーム、ラウンジ、シェアラボを設置し、ベンチャー企業を中心にライフサイエンス領域のプレイヤーが約100社集積している。

< 主なテナント >

- 大学（北海道大学、東北大学、東京大学、慶応大学、京都大学、大阪大学、九州大学、UCSanDiego等）
- 公的機関（東京都医工連携イノベーションセンター、経産省InnoHub、厚労省Mediso、AMED創薬支援戦略部、理化学研究所AIPセンター）
- 医療・医薬品関連団体（製薬協、FIRM、日本CRO協会等）
- 事業化支援団体等（日本医工ものづくりコモンズ、バイオ産業情報化コンソーシアム等）
- ベンチャー企業（医薬品、医療機器、検査機器、医療IT等）
- アクセラレーター、ベンチャーキャピタル（Beyond Next Ventures、アクシールキャピタルアドバイザーズ、INDEE JAPAN棟）
- コンサル、事業支援等（辻丸国際特許事務所等）

日本橋エリアの取組： ライフサイエンス・エコシステム構築による「新産業創造」

3. スタートアップ支援・イノベーションに係る進行中のプロジェクト、今後予定・計画しているプロジェクト



LINK-Jは、ライフサイエンス分野に従事する方のための「人と情報の交流プラットフォーム」。国内外の様々なクラスターと連携しながら、人々が「集まる」「つながる」ための「交流・連携」事業と、そのなかで生まれたアイデアやイノベーションが「育つ」「はばたく」ための「育成・支援」事業で、これまでにない新たなライフサイエンス産業の創造をめざして、さまざまな機会を提供している。

< 交流連携 >

創薬・医療機器・ヘルスケアITをはじめ、予防・未病・健康長寿など広義のライフサイエンス研究・産業に関わる産官学のプレイヤーを対象とするオープンな交流連携イベントを実施。

(2019年のイベント実施回数：518件)

< 育成支援 >

起業家養成プログラムや海外カンファレンスへの参加促進などベンチャー企業や研究者、学生を対象としたプログラムを実施。

< 国内外連携 >

国内外10か所の団体・企業と提携(2019年6月現在)。プログラムやイベントの相互開催、刊行物、資料や情報の交換、双方の会員へのサービス提供、相互訪問、活動における共催・協賛、告知の協力などコミュニティにとって実際に役立つサービスを提供している。



国内外連携

日本橋エリアの取組： AIをはじめとしたスタートアップエコシステムの構築

1. 日本橋エリアにおけるキーパーソン・インフルエンサー、2. 日本橋エリアの集積



PROTOSTAR

プロトスター株式会社

両社共同でE.A.S.T.構想を主導
スタートアップの成長と大企業のイノベーションを同時に
実現するエコシステムを創ることを目的に、スタートアップ
の集積、コミュニティ形成を実施

・日本橋には、ベンチャー企業の事業規模や成長スピードに合わせた多彩な空間が
お用意されており、ビジネス支援パートナーによる各種支援サービスも豊富。

・特に「Clipニホンバシ」は、プロトスターによるベンチャー企業の成功と大企業のオー
プンイノベーションを同時に叶えていくプロジェクト「E.A.S.T.」（イースト）構想
と連携し、起業家支援機能が強化されている。

・プロトスターはコミュニティマネージャーとして常駐し、起業家ネットワーク、VCやエン
ジェル投資家などの支援者ネットワークを通じて、ベンチャー企業の成長支援に取り
組んでいる。

場の集積

- ・イベント・コワーキングスペース：Clipニホンバシ
- ・スタートアップオフィス：BEAKER、LAUNCH、Clip
- ・AI関連：理化学研究所 革新知能統合研究センター（AIP）
トヨタ・リサーチ・インスティテュート・アドバンスト・デベロップメント
株式会社（TRI-AD）

資金の集積

- ・31VENTURES CVCファンド1号 総額50億円
- ・31VENTURES グロース 事業 総額300億円

ヒトの集積

- ・スタートアップオフィス入居テナント 13社
- ・コワーキング会員 約75名（満員）、イベント開催 年間130件超



Clipニホンバシ

日本橋エリアの取組： AIをはじめとしたスタートアップエコシステムの構築

3. スタートアップ支援・イノベーションに係る進行中のプロジェクト、今後予定・計画しているプロジェクト

AI技術等 都市を活用した社会実装の取り組み

- ・日本国内初 高精度音声ナビゲーション・システム「インクルーシブ・ナビ」をサービス実装
 - 日本IBMのAI技術の対話機能と連携したバリアフリーナビゲーションのサービスを2019年10月に実装
- ・ANAホールディングスと三井不動産が日本橋エリアを舞台にアバターの都市実装共同事業を開始
 - 日本橋エリアに普及型コミュニケーションアバター「newme」を2020年度100体投入
 - ANAHDはアバターの社会インフラ実装の一環として推進



“E.A.S.T.”（イースト）構想

プロトスターが進める「“E.A.S.T.”（イースト）構想」は、東京の東側に集積する様々な産業を革新することに挑戦するベンチャー企業の日本橋への集積を促進し、支援していくことで、ベンチャー企業の爆発的成功と大企業のオープンイノベーションを同時に叶えていくプロジェクト。「E.A.S.T.」とは、「Empowering Ambitious Startups in Tokyo」の略でもあり、東京東側エリアで意欲的なベンチャーを勇気づけ、力を発揮してもらうという意味を込めている。

- E.A.S.T構想 新規スタートアップコミュニティ「Swing-by」始動（2019年12月）
 - 「Swing-by」において2つのプロジェクトを同時展開
 - アクセラレータープログラム「Moonshot」：プロジェクトを軌道に乗せるための支援を行う1年間のチーム支援プログラム
 - スクールプログラム「AWAKE」：挑戦者と共に変革を目指す“CXO”育成プログラム

「日本橋コミュニティ・エコシステム」

三井不動産と地域SNSアプリ「PIAZZA」が連携し、デジタルとリアル融合により日本橋で働く人を中心としたコミュニティ形成を促進するプロジェクト「日本橋コミュニティ・エコシステム」を推進中。デジタル面では、PIAZZAが運営する地域SNSアプリを活用し、人々が気軽に参加できる街のオンラインネットワークを構築、リアル面は、シェアスタジオやキッチンを備えたコミュニティスペース「Flatto」を2019年4月16日からオープンし、リアルなつながりを促進する場を提供し、コミュニティ活性化の相乗効果を生み出している。



・ **民間組織の取組**
六本木・赤坂・虎ノ門エリアの取組

虎ノ門・赤坂・六本木エリアの取組：グローバルビジネスセンター

1. 虎ノ門・赤坂・六本木エリアにおける

キーパーソン・インフルエンサー



伊佐山 元 氏 (株式会社WIL 共同創業者 兼 CEO)
国内・海外のスタートアップ企業への投資を行うベンチャーキャピタル。2020年に森ビルと共創して、虎ノ門ヒルズビジネスタワーに日本の大企業の新規事業を加速・伴走するインキュベーションセンター「ARCH」の運営に携わる。



児玉太郎氏 (アンカースター株式会社 代表取締役)
2010年にFacebookカントリー・グロスマネージャーとして日本でFacebookを浸透させるために活躍。2015年にアンカースター株式会社を設立。2017年にはKickstarterのカントリーマネージャーにも就任。海外企業の日本進出を支援するほか、国内外企業間のパートナーシップ支援事業に従事。



山川恭弘氏 (ベンチャーカフェ東京 代表理事)
ケンブリッジ・イノベーション・センター (CIC) (ボストン) で2009年に誕生したイノベーション・エコシステム構築のためのプログラムの運営 (現在、世界9都市で開催) 「Thursday Gathering (サズデー・ギャザリング)」と呼ばれる交流イベントを毎週開催しており、新たなイノベーション創出の文化を醸成



梅澤 高明 氏 (CIC Japan合同会社 会長)
CIC Japan会長として、国内最大の都心型スタートアップ拠点「CIC Tokyo」の設立に従事。A.T.カーニーのコンサルタントとして、日米で20年以上にわたり、戦略・イノベーション・マーケティング・組織関連のテーマで企業を支援。現在は日本法人会長。

2. 虎ノ門・赤坂・六本木エリアの集積

場の集積

インキュベーションセンター「ARCH」
(新規事業創出を目指す大企業の出島集積)
CIC TOKYO (国内最大級のインキュベーション施設)
KaleidoWorks (JVCAはじめ、独立系VCが集)

資金の集積

JVCA加盟 VC会員 (全100社) 所在地集積
虎ノ門・赤坂・六本木地区 16社
(参考：港区28社 千代田区15社 中央区社 渋谷区14社)

ヒトの集積

Venture Café Tokyo
(2018/3～延べ約100回開催 延べ2万名が参加)
Innovation Leaders Summit
(2015年より毎年開催。2019年度はスタートアップ582社×
大手企業115社が参加)

虎ノ門・赤坂・六本木エリアの取組：グローバルビジネスセンター

3. スタートアップ支援・イノベーションに係る進行中のプロジェクト、今後予定・計画しているプロジェクト

インキュベーションセンターARCH（虎ノ門ヒルズビジネスタワー 2020年4月開業）

大企業の事業改革や新規事業創出をミッションとする組織に特化して構想された、世界初のインキュベーションセンター。

豊富なリソースやネットワークを持つ大企業ならではの可能性と課題にフォーカスし、ハードとソフトの両面から、事業改革／事業創出をサポート。スタートアップとの協業も支援する。2019年度「イノベーション・エコシステム形成促進支援事業」共同プロジェクトに採択された海外企業技術の実証実験をはじめ、新技術の都市実装を目指す実証を行う。

CIC TOKYO（虎ノ門ヒルズビジネスタワー 2020年夏開業）

国内外のスタートアップ企業をはじめ、ベンチャーキャピタリスト、アクセラレーター、大企業、学術研究機関、政府機関及び自治体また、スタートアップ企業を支援する弁護士や税理士といった様々な分野の専門家が一同に集積するエコシステムを創出。

特にスタートアップ領域では、スタートアップ100社、女性起業家、外国人起業家、外資系スタートアップ、国内外の大学研究機関など、国内最大規模、かつダイバーシティに富んだ国内最大規模の集積拠点を目指す。

東京都ソーシャルロボット産業のプロモーション推進事業（虎ノ門エリア 2020年度）

今後訪れる人口減少社会において、AIやIoT等の第四次産業革命技術のフル活用により労働力不足の解決を補完し、更なる経済成長を維持する技術として注目されるソーシャルロボットの社会実装。ソーシャルロボット導入の機運の向上と社会デビューさせるための環境整備や市場での優位性獲得のためのしくみづくりを目的としたシンポジウム、アイデアソンの開催、市民が体験できるプロモーションスポットを虎ノ門ヒルズエリアに開設を予定。

Innovation Leaders Summit（虎ノ門ヒルズビジネスタワー 2015年～毎年開催）

アジア最大規模のオープンイノベーションカンファレンス「イノベーションリーダーズサミット」。2015年より毎年虎ノ門ヒルズで開催され、毎年その規模を拡大している。2019年には、スタートアップ582社×大手企業115社との間の2434件のマッチングが行われた。2020年度も虎ノ門ヒルズで開催を予定。

ビジネス発信拠点（（仮称）虎ノ門ヒルズステーションタワー 2023年度竣工予定）

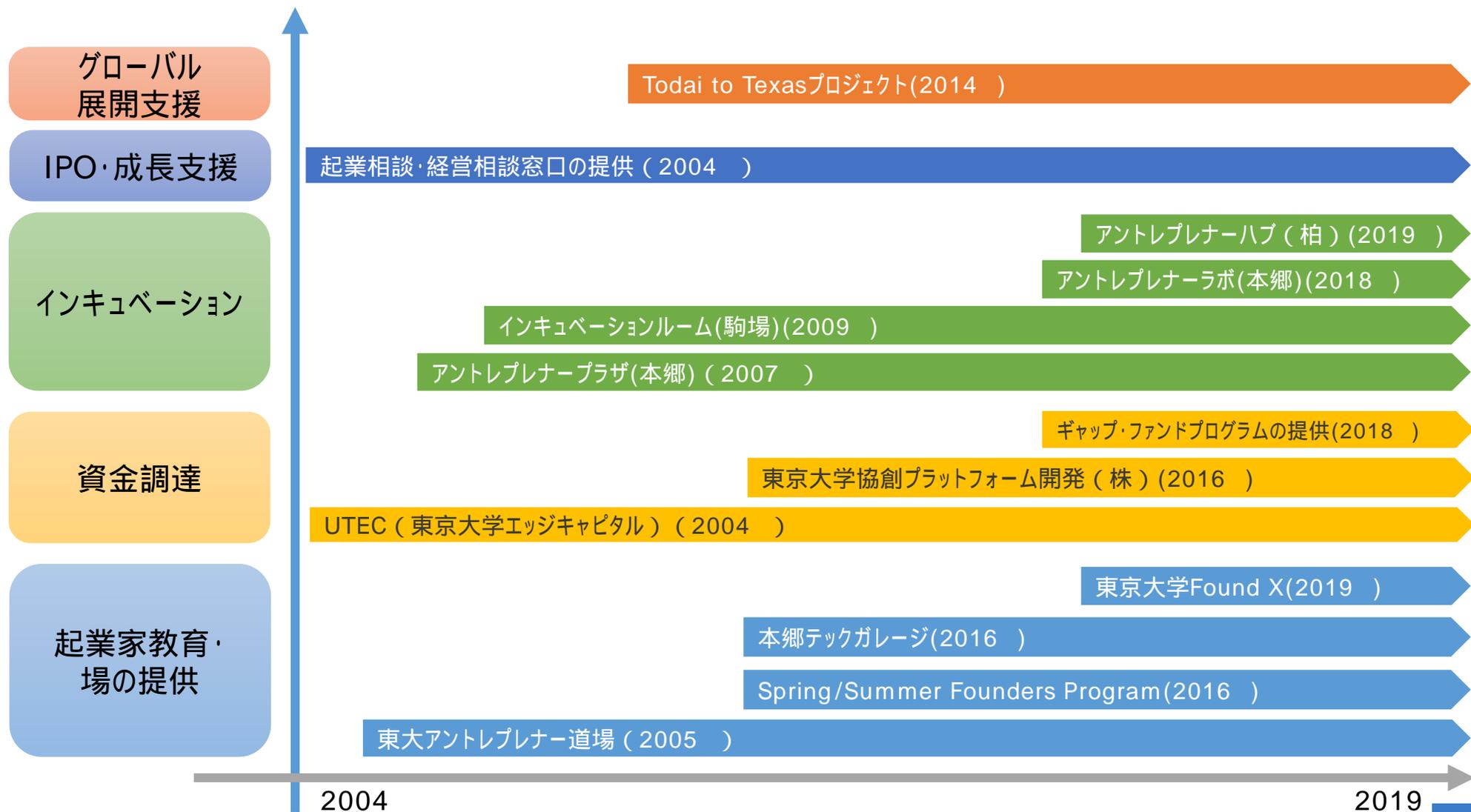
大企業やベンチャー企業、起業家から広く一般の方にも開かれた交流施設を設置、新たなビジネスやイノベーションの発信拠点を創出。すでにスタートアップ系イベントが多く開催される虎ノ門ヒルズフォーラム等と連動した、世界への発信拠点として整備。

・ **大学の取組**
東京大学の取組

大学の取組【東京大学の取組】

○東京大学の取組：

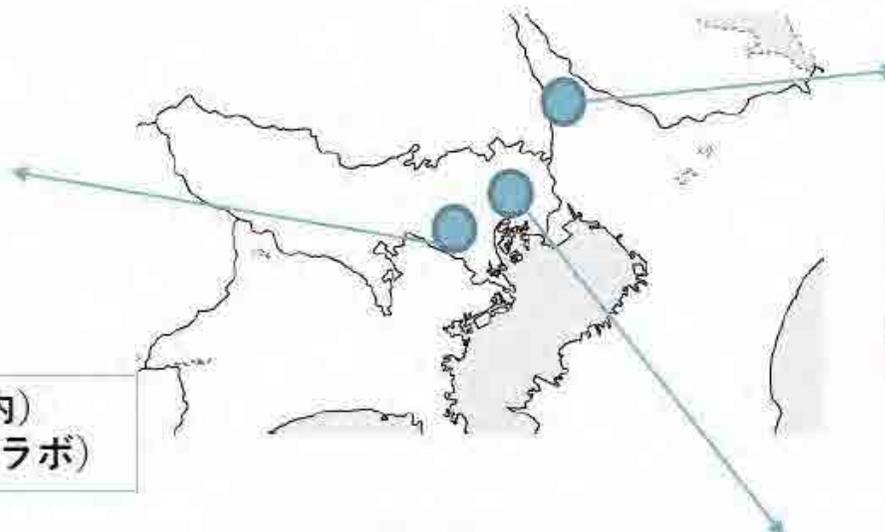
- ・2004年より起業家教育や経営支援など、学内の基本的なスタートアップ支援を開始
- ・近年は特に、ディープテックに特化した機能を各キャンパスで拡充（テックガレージ、アントレプレナーラボ等）
- ・有望シーズを有する研究者等を具体的な起業につなげる施策として、新たな場や支援の仕組みを追加（Found X、ギャップ・ファンド等）



東大のインキュベーション施設等



駒場地区（連携研究棟内）
（この他に、駒場オープンラボ）



柏地区（柏Ⅱキャンパス）
2019年開設



本郷地区（アントレプレナープラザ 2007年開設
および アントレプレナーラボ 2018年開設）

**利用ベンチャー数
現在36社（累計83社）**



○新たな発展的取組：

東京大学を中心に、民間スタートアップ・大企業など外部と連携を深め発展的な取組を推進

事例 1：

インクルーシブ工学連携研究機構（RIISE）
 価値交換工学 社会連携研究部門（メルカリとの連携）



様々な社会課題解決に向けて、各学術領域が垂直・水平的に連携、融合した新たなコラボレーション創出のため、工学系研究科、新領域創成科学研究科、情報理工学系研究科、情報学環、生産技術研究所、先端科学技術研究センターからなる連携研究機構として2019年に組織。インクルーシブ（包摂的）な社会を実現するために、領域横断的な研究チームを組成することで、民間企業等との社会連携を通じた未来ビジョンの実現のための教育・研究に取り組んでいる。

初の研究部門として、メルカリの研究開発部門「メルカリ R4D」と共同で社会連携研究部門「価値交換工学」を2019年12月に設置。

共同研究の期間は、2020年1月から2024年12月31日まで。共同研究費用のうち、5年で10億円をメルカリが負担する。

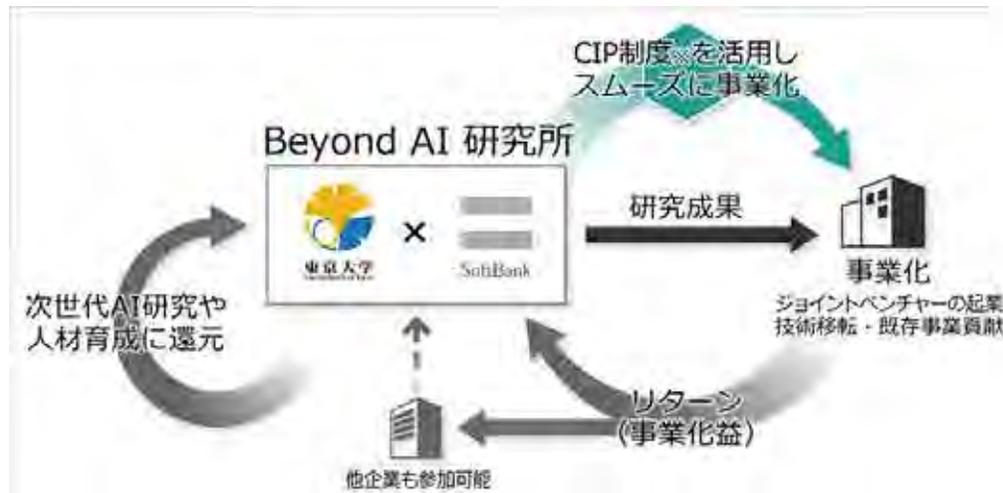
価値の分析：モノやサービスの価値を希少性やコンテキストを踏まえて定量化する技術、 価値の生成：人々が作り出したモノやサービスの価値を産み出し、高める技術の研究、 価値の交換：価値交換を支えるプラットフォーム技術の研究を研究課題に位置付ける。

事例 2：

『Beyond AI研究所』の開設（ソフトバンクとの連携）

2019年12月、東京大学とソフトバンク株式会社の間で、世界最高レベルの人と知が集まる研究所『Beyond AI 研究所』の開設、および研究成果の事業化に向けた取り組みに関する協定を締結。

AIの基盤技術研究やその他の学術領域との融合を目指す基礎研究領域と、さまざまな社会課題・産業課題へのAIの活用を目的とする応用研究領域の二つの領域で研究を実施。研究所内では各研究領域の連携を密に行うとともに、研究成果の事業化にあたっては、大学と企業とのジョイントベンチャーの迅速な設立を可能にするために経済産業省が新たに策定したCIP制度（Collaborative Innovation Partnership制度）を活用。



具体的な取組

- (1) 東大と海外有力大学の世界最高レベルの研究者による最先端AIの研究
- (2) 新たなジョイントベンチャー制度を活用して研究成果を事業化
- (3) 本郷キャンパスとソフトバンク竹芝新オフィスの2拠点に研究所を設置

大学取組

慶應義塾大学の取組

大学の取組【慶應義塾大学の取組】

1. 地域における大学のスタートアップ創出・支援の取組



医学部 健康医療ベンチャー大賞 (2016年度～)

- 日本初の医学部主催ビジネスコンテスト
- 慶應ビジネススクールと理工学部との共催により、医療・ビジネス・技術の三つの面から参加チームのプランを強かにサポート（医療ビジネス専門家のメンタリング、医療従事者へのヒアリング等）
- 学内外を問わず、学生/社会人の両部門でビジネスプランを公募（2019年度は130以上のエントリー）
- K-MAH：スピンオフ企画・医療機器アプリ作成コンテスト開催（2018年度～）




慶應義塾大学イノベーション推進本部 設置

- 人生100年時代の健康長寿を支えるスマート社会の創成 -
(2018年度～)

- イノベーション創出/イノベーション導出/起業創出の3つの機能。構成員の半分以上に産業界の人材を登用。
- メディカル・ヘルスケア領域、スマート社会領域で、今後、起業創出・支援機能をさらに強化




- 大型産学連携共同研究プロジェクトの創出



一般社団法人 SFCフォーラム SFCフォーラムファンド (2017年度～)

- SFC（湘南藤沢キャンパス）では開設以来熱心に起業家教育に取り組む（専任スタッフ配置、インキュベーション施設設置）
- 主にSFC初の/SFCと連携した、社会に認知されていないアイデアの事業化を図る起業家対象のスタートアップ向け投資ファンド
- 投資額は1000～3000万円/1回程度の、シード期に特化したファンド（日本版エンジェル）



慶應義塾先端科学技術研究センター(KLL)主催 慶應科学技術展 KEIO TECHNO-MALL (1990年度～)

- 理工学部の研究成果を紹介。技術とビジネスの「Watering Hole（水飲み場）」として設計された技術展。来場者2000名/1日。
- ベンチャーゾーン設置。尖った技術を活用した新規事業、新規市場開拓への支援アピール




慶應義塾大学 医学部発ベンチャー協議会

- 医学部発ベンチャー16社による任意団体
- 大学にすべてをまかせるのではなく、創立者の精神・独立自尊の考えのもと自主的に行動
- ベンチャーエコシステムの醸成を目標に、起業家自身の学びの場を作るとともに大学や社会へ発信



大学の取組【慶應義塾大学の取組】

2. 地域の大学における起業家教育の取組



○ **ヘルスケア領域アントレプレナー育成**
Tonomachi Edge：システムデザイン思考の手法を導入して、ヘルスケア領域におけるイノベーション創出を促進

○ **ASG慶應反分野的研究フォーラム**
全く異なる分野同士のアイデアの融合や人の交流から新たな科学的発展が生まれることを目的として、若手研究者、学生、企業人らが垣根を越えて語り合う場と機会

○ **ジュニアドクター育成塾 KEIO WIZARD**：社会にあるニーズに目を向け、科学の力で応えるパスツール型の発想や行動、起業家マインドを持つジュニアドクターの育成

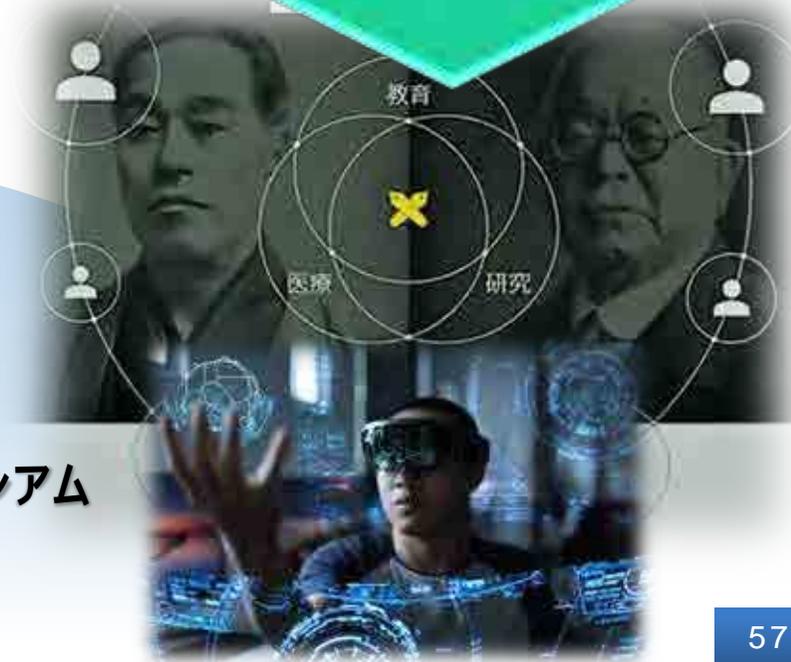


信濃町キャンパス
医学研究科 修士課程
アントレプレナー育成コース
2020年4月設置

医学 + 企業家精神の形成
画期的な大学院コースの新設

AIConsortium
慶應義塾大学 AI・高度プログラミングコンソーシアム

日吉キャンパス
AI・高度プログラミングコンソーシアム
AIアントレプレナー講座
2020年4月設置



大学の取組【慶應義塾大学の取組】

3. 大学と地方自治体、民間のスタートアップ創出・支援に関する連携



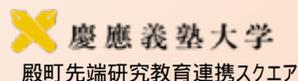
2015年12月 野村ホールディングス(株) とベンチャーキャピタル「慶應イノベーション・イニシアティブ」を設立。民間から資金を募り1号ファンド(45億円)を運用中。2020年には2号ファンドを開始予定。



2019年11月

慶應義塾大学、川崎市産業振興財団、横浜銀行の3者で川崎市域における産業振興を目的とした覚書締結

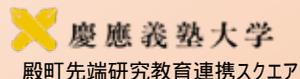
市内に集積する大学・研究機関などの技術・研究シーズを発掘し、共同で事業化・社会実装に向けた支援を実施。2020年度より助成金事業開始する。



2019年6月

(地独)神奈川県立産業総合研究所と連携協定締結

異分野融合研究、事業化支援等相互協力を開始



慶應義塾大学 (医学部、理工学部、薬学部)

自治体、VC等と連携したアクセラレータープログラムの実施を検討予定

首都圏のアカデミア連合、プラットフォーム企業群と自治体の協業により、尖った研究成果の社会実装による広域エコシステムの実現を構想



・ **大学の取組**
早稲田大学の取組

2014年度 - 2016年度 文部科学省EDGEプログラム採択

WASEDA-EDGEのビジョン、ミッション

■ ビジョン

研究成果やアイデアを自ら創出するだけでなく、地球規模の視点でビジネス創造し、地球市民一人ひとりの幸せの実現に貢献できる**EDGE人材**を育成する。

■ EDGE人材とは

専門的基礎能力を持ち、鋭利な発想、体系的な方法により新たな市場を開拓し、グローバル展開可能な新規事業創出につなげる能力を持つ人材。
(例: MIPS創業者、前スタンフォード大学長 John L. Hennessy)

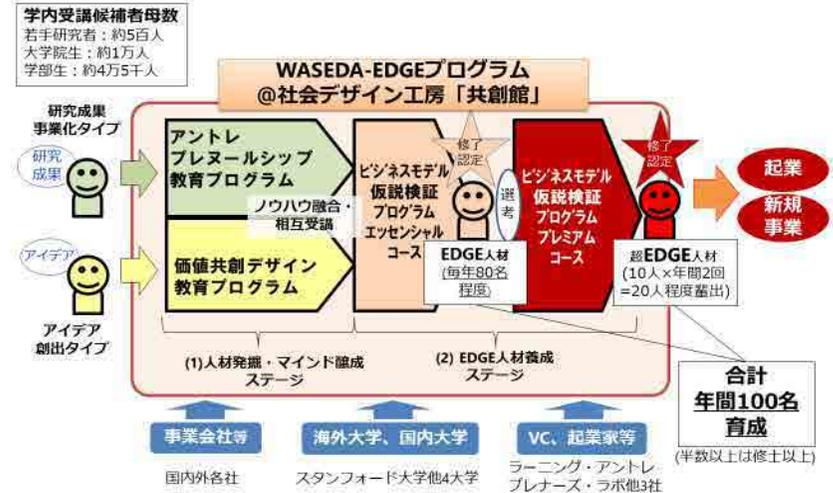


■ ミッション

環境・貧困・災害・紛争等の地球的課題の解決に対して、新規事業・産業の創出によって貢献し、世界の平和と人類の幸福の実現に資する**EDGE人材を年間延べ100名、全事業期間で延べ250名育成する。**さらに、**EDGE人材によるベンチャー創業を3社以上実現する。**



WASEDA-EDGE人材育成プログラムの全体像



WASEDA-EDGE人材育成プログラムの成果(2014年度~2016年度)

共創館の構築

学生・社会人の共創的なインタラクションを促進し、産学官連携によりイノベーションを創出する人材を恒常的に育成する場づくり



受講者数とEDGE人材の活躍



起業数累計8件



産業界、国等からの注目、評価

資金提供団体・企業の出現、メディアでの取り上げ
国のイノベーション会議での取り上げ

事後評価で最高評価Sを獲得

WASEDA University 早稲田大学

News

文科省グローバルアントレプレナー育成促進事業に係る事後評価 最高評価Sを獲得

早稲田大学は、文科省「グローバルアントレプレナー育成促進事業(EDGEプログラム)」の2018年度に実施された事後評価において、最高評価Sを受けました。

「グローバルアントレプレナー育成促進事業」は文部科学省が推進し、我が国におけるイノベーション創出の活性化のため、大学等の研究開発成果を基にしたベンチャーの創業者、既存企業による新事業の創出を促進する人材の育成と関係者・関係機関によるイノベーション・エコシステムの形成を目的とした事業です。本事業には、2014年から2016年までの3期間が設定されており、去年は3年連続で実施期間中から、「イノベーション人材育成拠点」として認定された11大学として認定されたといえます。

本事業の構成において、本学は、我が国の成長戦略の実現に資するため、「WASEDA-EDGE人材育成プログラム」の名称も、本学を挙げて支援活動により社会デザイン工房「共創館」を設け、事業化モデルを持つ人材の育成、積極的なネットワーキング・エコシステム構築に貢献することを掲げました。

出所: 早稲田大学ホームページ <https://www.waseda.jp/top/news/57883>

** 学生・教職員を対象としたベンチャー支援～インキュベーション部門

Consulting

起業相談や、弁護士、公認会計士
らによる専門的な相談への対応



Finance

提携ベンチャーキャピタルの紹介
をはじめ様々な資金調達を支援

WERU Investment
Research & Business Development



インキュベーションセンター
(19-3号館)

Office

法人登記ができ、
オープンスペースや会議室
が利用可



Software

ベンチャー向けプログラム
MATLAB®を
1年間無料で利用可



Networking

イベントを介し、起業家、投資家、
企業関係者らとの関係構築を支援



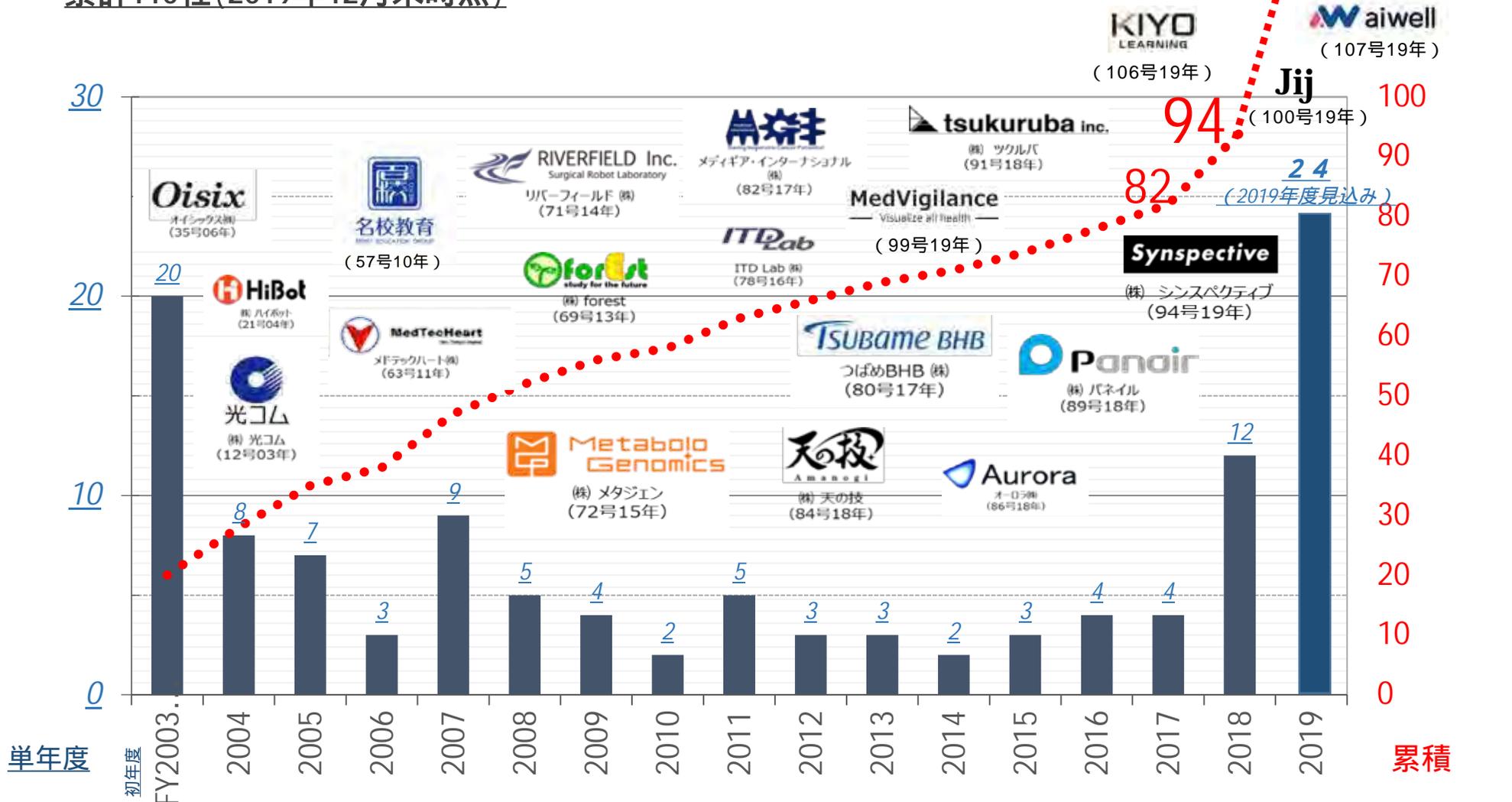
大学取組

東京工業大学の取組

東工大初ベンチャー称号の授与

東工大発ベンチャー称号授与企業数推移

累計110社 (2019年12月末時点)



学生スタートアップ支援



令和元年 第一回 東工大基金による学生スタートアップ支援事業

TOKYO TECH

Startup Challenge 2019

学生^{※1}向け起業アイデア ピッチ・コンテスト
2019年 第1回 **急募**
最大**100万円**まで支援^{※2}

Pitch your plan and you may win our support with maximum of 1 million yen.

応募説明会： 6月26日（水） 大岡山キャンパス 第一食堂2階
Attic Lab（アティックラボ）
13:30～17:00 個別相談
※都合のいい時間に来てください

応募締め切り： 7月8日（月）メールにて申請用紙必着

書類審査合否： 7月10日（水）までに通知します

ピッチ審査： 7月17日（水）午後 1組5分まで

応募先： 研究・産学連携本部
ベンチャー育成・地域連携部門宛て

✉ venture@sangaku.titech.ac.jp
☎ 03-5734-2479
📍 E3-11

5,000,000円/年

学生スタートアップ支援

東工大発ベンチャー
起業

【学生スタートアップ支援の経過と実績】

1. 平成28年度支援の学生が起業 Hapbeat合同会社
(79号 2017年)
2. 平成29年度支援の学生が起業 ビネット&クラリティ合同会社
(90号 2018年)
3. 令和元年度支援の学生が起業
株式会社digzyme (104号 2019年)
GoMA株式会社 (110号 2019年)
クレープシードラ株式会社 (称号の申請予定)

東工大 田町キャンパス スタートアップ支援拠点 (JR山手線駅前)

2020年4月から
田町キャンパス(東京都港区)で、
東工大発ベンチャー4社に施設提供を開始。

同一フロアに、コ・ワーキング・スペースを用意
(学生等が利用する起業準備スペース)
JR山手線駅前の利便性を活用



田町キャンパス再開発
2029年頃から国際的な産学官連携拠点を形成

産学官連携を強化する開発コンセプトで新産業へつなげる機能を導入
民間事業者の不動産開発に係るノウハウ・経験・資金等を最大限活用した大規模再開発
JR田町駅周辺の魅力的なまちづくりや東京都の都市再生、国際競争力の強化にも貢献

産学官連携機能の導入

新産業の創出拠点を形成するための機能の一つとして、最先端の研究教育を推進している本学と再開発事業者が連携し一体的に整備・運営していく産学官連携機能を導入。

大学専有部と民間専有部を合わせて10,000㎡を超える規模の都心型の大型コミュニティ・ワーキングスペース、インキュベーション施設及び新技術等の情報発信スペース等を想定。

国内外の大学、企業及び研究機関等との戦略的パートナーシップと共創型コミュニティを形成することで、田町から新たなオープンイノベーションを創出。

Attic Lab

学生による学生のためのワーキングスペース (@大岡山キャンパス)



学生設計メンバー 笹田知里さんのコメント
(環境・社会理工学院 建築学系 修士課程)

手作りの面白さ



空間をデザインするにあたって、まず今回の場所のコンセプトである、東工大生にとっての「秘密基地」を具体化し、「それぞれの専門の知識を持ち寄り『集合知』、最初は隠れた場所でこっそり、しかし着実に『オタク感』、試行錯誤を繰り返して『実験室』、時が来たら天井を突き破って世に出ていく『屋根裏部屋』」といった空間コンセプトのキーワードを導き出しました。「オタク感・実験室・屋根裏部屋」というキーワードからは「色や素材感の持つ荒さ、タフさ、堅実さ、不器用さ」を持つ空間をイメージし、それを「木・コンクリート・金属・モノクロなどの異なる色や素材感の組合せ」によって構成することで「集合知」を表現しました。また、構成材毎のデザインは「集合知」を生かすことに重点を置きました。

場の活用



起業塾 STARTech (仮称) 2020年度 新設予定

起業をチャンレンジしたい学生ための実践道場。起業からスタートアップまで、起業家として必要な武器を獲得し、東工大発ベンチャーのCEOを目指す。